

# 会話への積極的参加を示す発話の指導にむけて

## －「残念ですね」を例に－

大場美和子 中井陽子 土井眞美

### 要 旨

本研究は、会話への積極的な参加を示す方法の1つとして「残念ですね」を例にとり、日本人との接触場面において許容される、「あいづち + a」としての使用条件の分析を行い、会話指導へつなげる方法を考察するものである。なお、本稿では、使用条件の分析結果について報告する。分析では、まず、①誰が「残念」か、②「残念」の感情を引き起こした原因の領域、③誰の行為/状況か、④人間関係という項目から、どのような状況で「残念ですね」が使用できるのかを分析した。この結果、①②の組み合わせから「残念ですね」が使用可能となる3つの型 (Speaker (S) Listener (L) -SL, S-L, L-L) が抽出された。更にこの3つの型と③④との関係から、1) ③誰の行為/状況か、2) ④人間関係、3) 「ね」の使用、に制限がみられた。次に、「残念ですね」が何に対して使用できるのかについても分析し、SL-SL, S-Lの場合は、ある「行為の不実現」、「行為の絡んでいない何かを失う/失った状況」の2つに対して、自分の感情として「残念ですね」を発話するのに対し、L-LはLのある「行為の不実現」に対してのみ、Lへの同情の気持ちとして「残念ですね」を発話できるということが明らかになった。

[キーワード] 残念ですね、使用制限、接触場面、会話、積極的参加、あいづち + a

## The Analysis of the Utterances Used to Show an Involvement in Conversation: the case of “Zannen desu ne”

OHBA Miwako, NAKAI Yoko, DOI Mami

[Abstract] This study examined the expression “Zannen desu ne”, which is used to show the speaker's involvement in a conversation, an expression which learners may use in contact situations with native speakers. The findings suggest some pedagogical applications for teaching *aizuchi* 'back-channel utterances' in Japanese conversation. We analyzed the use of “Zannen desu ne”, based on: ① the person feeling “zannen”, ② the situational territory of “zannen”, ③ the person related to the action/situation in context, and ④ relationship between speaker and listener. We found three combinations between ① the person feeling “zannen” and ② the situational territory of “zannen”, including Speaker(S)/Listener(L)/SL, L/L, and S/L. We also found three areas of restrictions in the use of “Zannen desu ne”: 1) the person related to the action/situation in context, 2) by relationship between speaker and listener, and 3) in use of the final particle *ne*. We demonstrate that while speakers use “Zannen desu ne” in the situations of missing something or for unrealized actions to express their own feelings in case of SL-SL and S-L, they use it only in their interlocutors' unrealized actions to show their sympathy toward the interlocutors in case of L-L.

## 1. 研究の目的

学習者が既習の項目を使用して日本語での会話を試みた場合、教科書の説明そのものに沿ってはいるものの、相手が違和感を覚えてしまうような発話となってしまうことがある。

(1) 学生：先生、久しぶりですね。元気ですか。

教師：うーん、実は、かぜひいちゃってね。

\* 学生：残念ですね。<sup>(1)</sup>

これは、久しぶりに会った学生が、教師の体調がすぐれないということに対して「残念ですね」と発話したもので、この後、会話はすぐに終了する。この学生は、おそらく、教科書の「残念ですね」の訳に “That's too bad” “It's a pity” “I'm sorry to hear that~” などとあったために、相手が何か好ましくない状況にあることに対し、同情の気持ちを表すのに「残念ですね」が使用できると解釈し、発話したものと考えられる。筆者らは、この発話に対し、この状況で「残念ですね」は使用しないという訂正にとどめるのではなく、相手に対する何らかの感情を表す表現の使用により、積極的に日本語での会話に参加しようとする学習者の動機を生かし、日本人との会話につなげたいと考えている。

そこで、本研究では、学習者の日本人との日本語での会話へ積極的に参加したいという気持ちを生かし、会話の指導に向けて次のような立場をとる。

第1に、接触場面における「残念ですね」の使用条件を分析する立場をとる。これは、日本人同士の会話における「残念ですね」の使用の有無や使用頻度、使用方法を問題とするものではない。日本人同士ではあまり使用しない表現であっても、接触場面において学習者が使用するのであれば許容されることがある。例えば、ある場面において、日本人同士の会話にはなくても、言語化したり、表情や態度で示したりなど、学習者の母語での会話において、会話への積極的な参加の気持ちを表す方法がある場合もある。(1)のかぜの例における「残念ですね」の使用例に見るように、学習者に会話参加の動機があり、またその気持ちを表す方法が母語にあるのであれば、なるべくその動機と方法を日本語による会話においても生かしたいと考えている。よって、本稿では、日本人の「残念ですね」の実際使用のデータではなく、日本人の作成した「残念ですね」の会話例をデータとし、日本人が許容できる「残念ですね」の使用制限を分析することにより、許容される範囲において「残念ですね」の使用ができるよう指導することを考えている。

第2に、「残念ですね」という発話を、聞き手の「あいづち + a」としてとらえるという立場をとる。この「あいづち + a」とは、杉戸 (1987) と伊藤 (1993) を参考としている。まず、

杉戸 (1987:88) は、以下のようにあいづち的な発話と実質的な発話を区別している。本研究の「あいづち + a」の「あいづち」とは、この杉戸 (1987) の「あいづち的な発話」に相当するものである。

1. あいづち的な発話：「ハー」「アー」「ウン」「アソーデスカ」「サヨーデゴザイマスカ」「エーソーデスネー」などの応答詞を中心にする発話。先行する発話をそのままくりかえす、オーム返しや単純な聞きかえしの発話。「エーッ!」「マア」「ホー」などの感動詞だけの発話。笑い声。実質的な内容を積極的に表現する言語形式(たんなるくり返し以外の、名詞、動詞など)を含まず、また判断・要求・質問など聞き手に積極的なはたらきかけもしないような発話。
2. 実質的な発話：あいづち的な発話以外の種類の発話。なんらかの実質的な内容を表す言語形式を含み、判断・説明・質問・回答・要求など事実の叙述や聞き手へのはたらきかけをする発話。

(杉戸1987:88)

一方、伊藤 (1993) は「バックチャンネル + a」という形式を提案し、狭義のあいづちではなく、より広い聞き手の言語行動を分析対象としている。まず、「バックチャンネル」であるが、伊藤は、研究者間においてあいづちの定義のずれがあることから、あいづちという用語の使用を避け、「バックチャンネル」という用語を使用している。この「バックチャンネル」に簡単なコメントや短い発話を加えた形式を「バックチャンネル + a」とし、発話量を増やし、聞き手に終始するのではなく、聞き手よりさらに一歩話し手側に回り得る可能性のある段階であるとしている。

本研究の「あいづち + a」は、伊藤 (1993) の「バックチャンネル + a」に相当するものである。伊藤 (1993) は用語による誤解を避けるために「あいづち」を「バックチャンネル」としているが、「バックチャンネル」という用語はまだ定着しているものとは考えられない。よって、本研究では「あいづち + a」としたが、伊藤 (1993) と同じ立場である。そして、この「あいづち + a」を会話への積極的参加の1つの手段とし、会話における聞き手の役割の指導をめざしたいと考えている。これは、会話の聞き手は、単に話を聞くだけではなく、「はい」「うん」といったあいづちに、感情を表す表現を加えることなどにより、会話の主導権はとらないものの、話し手の発話内容に関心があることを示すことができ、またその結果、話し手の発話を更に誘発し、会話を盛り上げることができるからである。つまり、「残念ですね」という発話を、1つの表現として、辞書的な意味の理解にとどめるのではなく、聞き手の「あいづち + a」として認識し、会話への積極的参加へつなげる1つの手段として指導する必要があると考えてい

るということである。

なお、「残念ですね」の指導時期としては初級を想定している。この理由として、まず第1に、「残念ですね」という形式は初級の文法項目であり、学習者にとって理解や発話が特に困難ではないからである。第2に、日本に滞在している学習者の場合、「残念ですね」が使用できる状況に遭遇する可能性も高く、この場合、学習者にとって状況などを理解し、実感して使用できるからである。第3に、学習者が自分の感情を表現し、会話に積極的に参加しようという動機がある場合、次の2点は教師として避けたいと考えているからである。1つは、初級では学習項目が多量であるということから、学習項目のうち、感情を表したいといった学習者の動機を重視しようとししないものである。もう1つは、学習者が自分なりに表現として理解し、使用したものの、本人が意図しないことまで伝わってしまい、その結果、誤解を受け、人間関係に支障をきたしてしまったりすることである。「残念ですね」もこの例の1つといえるであろう。

以上のことをふまえ、本研究では、聞き手としての会話への積極的な参加へつなげるため、感情を表す「あいづち + a」の表現の1つの例として「残念ですね」をとりあげ、接触場面において許容される使用制限について分析することを目的とする。

## 2. 先行研究

聞き手の「あいづち + a」としての「残念ですね」に直接結びつく先行研究はないものの、「残念」の意味や聞き手の役割について分析した研究には以下のものがある。

まず、『日本国語大辞典 第二版』では「残念」を次のように解説している。

- ① 思いがあとに残ること。すんでしまった物事やそれまでの状態に対して、満足がいかなく物足りない感じがすること。また、そのさま。心のこり。
- ② 対人関係で圧倒されたり、勝負事に負けたりして、くやしく思うこと。また、そのさま。無念。

また、堀江(1995)は、日本語の「もったいない」「惜しい」「残念だ」の用例を、辞書、書籍、新聞、テレビ、手紙、日常生活で使われたものから収集し(38例)、日本人33人に対してアンケート調査を行い、3つの表現の意味の違いを分析し、これに対応するタイ語の表現を考察している。「残念だ」については、以下の①～③のようにまとめており、①②が意味の分析にあたるものと考えられる。③は定型化した形式や慣習についてのことであり、意味の分析にはあたらぬものと考えられる。

- ①自分自身の直接関わった物事が期待に反した結果になって、どうしてこんな結果になったのかと悔やむ。その度合は、すぐに忘れてしまう程度から、いつまでも心に残る程度まで、幅が広い。
- ②話し手が望む能力や状況とは異なっていて不本意であって、ときには失望感も含まれている。
- ③形式的、儀礼的挨拶言葉  
(堀江1995: 225-226)

次に、聞き手の役割に関する研究について述べる。堀口(1987)は、聞き手の積極的参加は、コミュニケーションを円滑に進めるためには不可欠であり、日本語教育においては、聞き手の役割を認識し、その言語行動を取り上げ、学習者のコミュニケーション能力を高める必要性を主張している。このコミュニケーションにおいて話し手が話を進めていくうえで聞き手の言語行動が重要な働きをしているという立場から、聞き手の言語行動のうち、相づち、先取り、確認を取り上げ、その機能と形態について分析している。

伊藤(1993)は、堀口(1987)などの聞き手の役割を主張する研究をふまえて、聞き手が談話を作り上げるパートナーであるには、相づちの指導だけでは不十分で、ある程度の発話量が必要であると主張している。そこで、「1. 研究の目的」において述べた、「バックチャンネル+*a*」という、バックチャンネルに簡単なコメントや短い発話を加えた形式の指導を提案している。この「*a*」の部分少しずつ変化させることにより、発話量を増やし、談話や会話に積極的に参加していく方法を考察している。

堀江(1995)は「残念だ」という表現の辞書的な意味の分析であり、堀口(1987)と伊藤(1993)は聞き手の役割についての研究である。堀江(1995)の「残念だ」という表現としての意味の分析だけをもとに、本研究の「あいづち+*a*」としての「残念ですね」の形式にあてはめ、会話の指導をすることは難しい。例えば、冒頭(1)のかぜの例の場合、教師のかぜをひいたという状況は、学習者が望んでいない状況であるため、「②話し手が望む能力や状態とは異なっていて不本意であって」、ということに該当し、「残念ですね」の発話の使用による違和感を説明することができない。つまり、「残念だ」という表現の辞書的な意味の分析だけでは、「あいづち+*a*」として「残念ですね」を使用するには説明が不十分であるといえる。よって、聞き手の「あいづち+*a*」としての「残念ですね」の意味の使用制限を分析する必要があるといえる。

### 3. 日本語教科書における解説

初級の日本語の教科書における「残念ですね」の解説には、以下のようなものがある。

まず、『みんなの日本語』では、9課の会話において「残念ですね」が使用されている。これは、ミラーさんが木村さんをコンサートに誘ったものの、木村さんには先約があるために断られるという会話である。語彙「残念です[ね。]」の英訳には、“I'm sorry (to hear that). / That's a pity.”とあり、会話における「残念ですね。」の英訳には“I'm sorry to hear that.”とある。

(省略)

ミラー：来週の金曜日の晩です。

木村：金曜日ですか。金曜日の晩はちょっと……。

ミラー：だめですか。

木村：ええ、友達と約束がありますから、……。

ミラー：そうですか。残念ですね。

木村：ええ。また今度お願いします。

(『みんなの日本語 I』 p.73)

次に、『Situational Functional Japanese』では、まず、13課の Model Conversation において「よかったわね」が使用され、この「よかったわね」に関連して、「残念ですね」を含む他の表現についても次のように解説している。

“When hearing good news about someone, you can congratulate him/her with 「よかったね。／わね。」; for commiseration, 「ざんねんだったね。／わね。(What a pity)」 or 「たいへんだったね。／わね。(You've had a hard time)」 can be used.”

(『Situational Functional Japanese 2 : NOTES』 p.133)

さらに、17課の Model Conversation では、実際に「残念」が使用されている。これは、鈴木さんが田中さんとリサさんをコンサートに誘ったところ、リサさんの方は先生に頼まれた仕事があるために断るという会話である。語彙「残念だ」の英訳には“‘What a pity’”とある。Conversation Notes では、断りのストラテジーを幾つか紹介しており、その中で、“If s/he still declines your invitation, finish the conversation with 「残念だな。じゃ、またいつか。」.” (『Situational Functional Japanese 3 : NOTES』 p.24) としている。

(省略)

リサ：日曜日の夜は、ちょっと…。

鈴木：だめ。

リサ：ええ、もっと、早くわかってたら、ことわれたんですけど。

鈴木：何かあるの。デート。

リサ：いいえ、先生に翻訳のチェックをしてほしいって頼まれてるんです。

鈴木：ああ、そう。

残念だな。じゃ、この次は。

リサ：いつですか。

鈴木：来月の19日、6時から。

リサ：ええ。じゃ、この次はぜひ。

(『Situational Functional Japanese 3 : NOTES』 pp. 2-3)

この2冊の教科書では、「残念」が会話に提示されている。しかし、その語彙の英訳だけでは、学習者は英語の“What a pity” “I’m sorry to hear that”と同じ用法であると理解し、冒頭(1)のかぜの例のように使用してしまう可能性がある。また、どちらも断りの会話において提示されており、少なくとも、断られた場合、そして会話を終了させる場合に使用できるということは予想できても、他にどのような状況の会話において、どのような用法で使用できるのかまでは明確ではない。結果として、英語の“What a pity” “I’m sorry to hear that”が使用できる状況で、英語と同じ用法で使用してしまう可能性が高い。また、英語と同じような状況や用法で使用できないのかもしれないと気づいた学習者がいたとしても、実際にどう使用すればいいのか十分な説明を教科書から得ることは難しいといえる。よって、「あいづち+a」として「残念ですね」を使用するためには、「2. 先行研究」において述べた、「あいづち+a」としての意味の使用制限の分析に加え、どのような状況の会話において、どのように使用するかという、「あいづち+a」としての用法の使用制限の分析を合わせて行う必要があるといえる。

次に、データ収集の方法とそのデータについて述べる。

## 4. 分析データ

### 4.1 データ収集

データは2001年7～8月にかけて「調査協力をお願い」を知人を介して配布し、「残念ですね」を使用した会話例の作成を依頼した。会話例の作成に関しては、会話参加者・参加者同士の関係・会話の場面／状況などを自由に設定し、記述してもらった。会話例の作成者自身に関しては、母語・性別・年代・日本語教育歴を記入してもらった。この結果、日本語教育関係者では123個の会話例が集まり、その中で131例の「残念」が用いられていた。関係者以外では72個の会話例中、94例の「残念」が用いられていた。よって、合計195個の会話例中、「残念」の使用例が225例収集された。

データが実例ではないことに関しては、問題とする立場の研究もあるかもしれない。しかし、本研究の目的は、「1. 研究の目的」において述べたように、日本人との接触場面において学習者による「残念ですね」の使用が許容される使用制限の分析であり、日本人同士の実際の会話における「残念ですね」の使用制限や使用状況の実態の分析を目的とするものではない。よって、本研究の目的である接触場面における使用制限の分析は、日本人が「残念ですね」を使用できる状況であると想定して作成した会話例の分析からでも、十分可能であるものと考えられる。<sup>(2)</sup>

#### 4.2 分析対象データ

収集したデータ225例には、全て通し番号をつけ、使用制限の分析の前に、まず、①自然さ判断と修正、②形式分類を行った。

##### ①自然さ判断と修正

収集した会話例には不自然な例があり、その不自然さの原因も異なっていた。まず、会話の状況設定自体が不自然な場合は、分析対象外とした(25例)。次に、会話の状況設定は不自然ではないものの、その設定状況において「残念」という表現を使用することが不自然な場合も、分析対象外とした(19例)。最後に、その設定状況において「残念」を使用することは不自然ではないものの「残念です」「残念でしたね」など、別の形式の方が自然である場合は、筆者らで自然と考えられる形式の修正案を作成した。この際、3人の意見が異なった場合は、分析対象外とした(27例)。<sup>(3)</sup>

##### ②形式分類

「調査協力をお願い」では、単文の「残念ですね」という形式による会話例の作成を依頼した。しかし、実際には「～て、残念ですね」「～のに、残念ですね」「残念ながら～」「残念だけど～」といった、単文の「残念ですね」以外の形式も多く収集されたが、これらは分析対象外とした(①自然さ判断で除外したものを除いて84例)。また、単文ではあっても、「残念でしたね」というテンスの違い、「残念ね」という文体の違いもみられた。今回の分析では、このテンスと文体の違いについては特に考慮に入れないものとし、本論では断りのない限り「残念ですね」により代表することとする。

本研究では、単文の「残念ですね」を分析対象とする。①自然さ判断と修正、②形式分類を行った結果、日本語教育関係者38例、関係者以外32例、計70例が分析対象となった。<sup>(4)</sup> 以下、データの後ろの( )に、作例番号と、関係者、非関係者として日本語教育関係者か否かを記入する。<sup>(5)</sup> なお、会話の状況説明や会話については、データ収集の際に自由に設定し、記述してもらった形式とした。よって、記述方法は様々ではあるが、本稿ではそのまま転記するものと



した。

以下、5. 1において用法の分析について、5. 2において意味の分析について述べる。

## 5 分析の方法

### 5.1 用法の分析

「残念ですね」の用法に関する使用制限を分析するため、まず、①誰が「残念」か、②「残念」の領域、③誰の行為／状況か、④人間関係という4つの分析項目をたてた。以下、この①～④について述べる。

まず、①誰が「残念」かとは、「残念」と感じる主体は誰であるかということである。「残念」と感じる主体は、必ずしも「残念ですね」の発話者とは限らない。次に、②「残念」の領域とは、「残念」という感情が生じた原因となるものが誰の領域にあるかということである。(2)は2人で旅行に来たものの富士山が見えないという状況である。よって、①誰が「残念」かは、AB共に「残念」と感じる主体である。②「残念」の領域も、2人が、富士山が見られないという状況にあるため、AB両者の領域に原因があるといえる。

(2) AとBは同じ会社の同僚。車で5時間くらいかけて二人で富士山を見にきたがあいにく曇りで富士山が見えない。

A：せっかくここまで来たのに、今日は富士山があまり見えませんねえ。

B：そうですねえ。ほんと、残念ですねえ。(例(30) 関係者)

次の(3)は、旅行について話しているという点では(2)と似ているが、(3)ではAが自分の旅行が中止になったことをBに話している。①誰が「残念」かは、旅行が中止となったAが「残念」と感じている主体であり、「残念ですね」の発話者Bではない。②「残念」の領域は、Aが楽しみにしていた旅行が中止になって行けなかったという状況にあるため、Aの領域に原因があるといえる。

(3) A：親戚のおじさん B：めい 場面：電車の中でばったり会ったときに

A：今年の夏は社員旅行で台湾に行くはずだったのに、むこうで地震があったから中止になっちゃったんだよ。

B：ええー、それは残念でしたね。(例(82) 関係者)

次に、③誰の行為／状況かとは、誰の行為や状況について話しているのかということである。大きく2つに分けられ、1つは、1) 会話参加者の行為／状況、もう1つは、2) 会話参加者

以外の行為／状況、である。つまり、会話参加者が自分たちのことについて話しているのか、参加者以外の第三者について話しているのかということである。

1) 会話参加者の行為／状況には、前掲の(2)富士山、(3)旅行中止があたる。(2)は会話参加者であるA B自身が、富士山が見えないという状況にあることについて話している。同様に(3)も、会話参加者であるAの旅行が中止で行けなかったということについて話している。

一方、2) 会話参加者以外の行為／状況とは、例えば、会話参加者が共通に知っている第三者の死や社会問題について話しているものである。これは、全ての死亡や社会問題に対して「残念ですね」といえるというものではない。第三者が会話参加者にとって親しい人間関係であったり、深刻な状況である場合は「残念ですね」の使用はむしろ避けられるものと考えられる。ただし、それほど親しくない人間関係や深刻ではない場合は、死亡や社会問題に対しても「残念ですね」という発話が許容されるというものである。(4)はA Bが共通に知っている同僚の「田中さん」について話している。同僚の退職について、A B共に「残念」と感じているため、①誰が「残念」かはA B両者である。また、A B共に同僚の退職という状況にあるため、②「残念」の領域もA B両者である。しかし、退職自体は第三者の「田中さん」の行為であり、会話参加者であるA B以外の人の行為について話しているといえる。

(4) AとBは同じ会社の同僚。Aは、同僚の田中が退職することを告げている。

A：田中さん、来月辞めてしまうそうですよ。

B：え！そうなんですか。それは、残念ですねえ。(例(41) 関係者)

なお、家族など会話参加者の一方に非常に近い存在の場合は、会話参加者の行為／状況に含まれるものとした。(5)は、娘のお見合いについて話しているものである。母親にとって娘は非常に近い関係であり、この例の③誰の行為／状況かは、1)会話参加者の行為／状況とした。

(5) 娘の見合いについて、母親が妹と電話で話している

叔母：お互いに気に入って、お付き合いすることになったんじゃないの？

母親：最初はね。でも、2、3回食事したら、「やっぱりやめた」だって。

しかも、勝手に先方に断っちゃったのよ。

叔母：残念ね。写真みたけど、いい人そうだったじゃない。

母親：こればかりはね。縁だから。(例(6) 非関係者)

最後に、④人間関係は、例えば、会社の同僚、友人、家族のような、上下・親疎などの様々な関係が見られた。

以上、分析項目をまとめると以下のようになる。この①～④の項目に基づいて、対象データ70例について分析を行った。

- ① 誰が「残念」か（「残念」と感じる主体は誰か）
- ② 「残念」の領域（「残念」という感情が生じた原因が誰の領域にあるか）
- ③ 誰の行為／状況か
  - 1) 会話参加者の行為／状況
  - 2) 会話参加者以外の行為／状況
- ④ 人間関係

## 5.2 意味の分析

「2. 先行研究」で述べたように、「残念」の意味の分析については、辞書や堀江（1995）の「残念」という表現としての意味の記述では、会話の指導という点からは十分な記述ではなかった。よって、収集データについて、「残念ですね」の発話者が、どのような立場で、何に対して「残念ですね」を使用しているのかを、なるべく具体的に記述し、そこになんらかの傾向がみられるのかについて分析することとした。表1・2の「話題」にまとめて記述した。

以下、6.1において「残念」の用法の分析結果について、6.2において意味の分析結果について述べる。

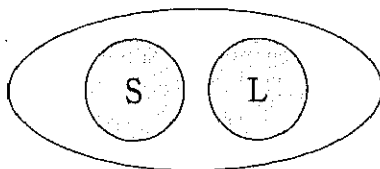
## 6. 分析結果

分析結果を表1、2（pp.44-47）に示す。以下、抽出できた3つの型について説明する。

### 6.1 3つの型と使用制限

4つの項目（①誰が「残念」か、②「残念」の領域、③誰の行為／状況か、④人間関係）からデータを分析した結果、①誰が「残念」か、②「残念」の領域、という2つの項目の組み合わせから、3つの型（SL-SL、S-L、L-L）が抽出された。また、この3つの型と、③誰の行為／状況か、④人間関係との関係から、この3つの型における使用制限がみられた。以下、「残念ですね」の発話者をS、聞き手をLとし、3つの型とその使用制限について述べる。<sup>(6)</sup>

#### 6.1.1 SL-SLの型



- S：「残念ですね。」の話し手  
L：聞き手  
①だれが「残念」か：○  
②「残念」の領域：○

図1：SL-SLの型（①だれが「残念」か；SL - ②「残念」の領域；SL）

表1：「残念ですね」の意味と用法の分析（関係者）

作例 番号	話 題	①誰が 「残念」か	②「残念」 の領域	③誰の行為 ／状況か	④人間関係	形 式
(3)	仕事開始でテレビ見られず	SL	SL	1)	後輩→先輩（同僚教師）	残念ですね。
(4)	レストラン休業（食べられず）	SL	SL	1)	初対面	残念ですね。
(21)	仕事不成功（プロジェクト失敗）	SL	SL	1)	同僚	残念ですねえ。
(27)	商品売り切れ（バーゲン商品買えず）	SL	SL	1)	主婦仲間	残念でしたね。
(30)	天気／景色（富士山曇りで見えず）	SL	SL	1)	同僚	残念ですねえ。
(86)	旅行中止（大雪で行けず）	SL	SL	1)	友人	残念だね。
(32)	他者会合不参加（食事会参加できず）	SL	SL	2)	主婦仲間	残念ですねえ。
(41)	他者退職（同僚が会社を辞める）	SL	SL	2)	同僚	残念だな／ですね／ですねえ。
(67)	他者退職（同僚が人事異動でチームを抜ける）	SL	SL	2)	同僚	残念ですね。
(89)	他者留学不実現（学生が書類ミスで留学できず）	SL	SL	2)	部下→上司	残念ですねえ。
(110)	他者転勤（同僚が転勤する）	SL	SL	2)	同僚	残念だね。
(50)	試合敗退（優勝候補だったが最終戦で負けて優勝できず）	L	L	1)	後輩→先輩（会社）	残念でしたね。
(54)	仕事不成功（企画がだめになる）	L	L	1)	先輩→後輩（会社）	残念だったね。
(101)	パンの配当なし（バイト先でパンがもらえず）	L	L	1)	年下→年上	残念ですねー。
(57)	受験不合格（大学院）	L	L	1)	先生→学生	残念でしたね。
(61)	受験不合格（試験）	L	L	1)	父親→息子	残念だなあ。
(62)	受験不合格（試験）	L	L	1)	父親→息子	残念だったなあ。
(83)-1	受験不合格（大学院）	L	L	1)	先生→学生	残念でしたね。
(85)	受験不合格（試験）	L	L	1)	知人	残念でしたね。
(112)	受験不合格（運転免許）	L	L	1)	先輩（日）→後輩（留）	残念でしたね。

(73)	結婚式不参加 (大学行事と重なり姉の結婚式に出られず)	L	L	1)	同級生 (日→留)	残念ですね。
(74)-2	他者旅行不参加 (久しぶりに会うはずの知人の孫が病気で旅行に行けず)	L	L	1)	嫁→姑	残念ですね。
(88)	チケットあるが行けず (出張でパレエを見に行けず)	L	L	1)	後輩→先輩 (会社)	残念ですねー。
(69)	旅行中止 (子供の病気のため家族旅行に行けず)	L	L	1)	部下→上司	残念でしたね。
(82)	旅行中止 (地震のため、旅行に行けず)	L	L	1)	姪→叔父	残念でしたね。
(108)	旅行中止 (台風のため、旅行に行けず)	L	L	1)	同僚 (疎)	残念でしたね。
(109)	発表中止 (徹夜で準備したゼミの発表が延期できず)	L	L	1)	友人	残念でした!
(111)		L	L	1)	後輩→先輩	残念ですね/でしたねー。
(87)	天気/景色 (霧のため、ロープウェイの景色見えず)	L	L	1)	友人	残念だったね。
(80)	引換券忘れ (引換券を忘れたため、粗品もらえず)	L	L	1)	孫→祖母	残念だね。
(99)	くじ引きはずれ (現場 引いたくじがはずれる)	L	L	1)	店員→客	残念。/残念ですねえ。
(55)	くじ引きはずれ (現場 引いたくじがはずれる)	L	L	1)	店員→客	残念ですね。
(114)	くじ引きはずれ (前に買った宝くじがはずれていたことを報告)	L	L	1)	友人	残念でしたね?。
(1)	会合参加断り (以前の誘い、子供の病気で行けず)	S	L	1)	後輩→先輩 (会社)	残念ですね。
(70)	会合参加断り (現場の誘い、残業で行けず)	S	L	1)	同僚	残念。
(91)	会合参加断り (現場の誘い、車運転のため行けず)	S	L	1)	同僚	残念ですね。
(56)-1	腐ったメロン (客に出すはずが腐っていて食べられず)	S	L	1)	知人 (客→家人)	残念!
(42)	芸能人引退 (大ファンの歌手が結婚引退)	S	S	2)	知人 (主婦仲間)	私、大ファンだったんですよ。あー残念ですねえ。

表2：「残念ですね」の意味と用法の分析（関係者以外）

作例 番号	話 題	①誰が 「残念」か	②「残念」 の領域	③誰の行為 ／状況か	④人間関係	形 式
(10)-1	商談不成立(別会社に取りられ、商談まともらず)	SL	SL	1)	部下→上司	残念ですね…
(19)-1	レストラン食事まずい(有名レストランが噂ほどおいしくなかった)	SL	SL	1)	友人	残念だね。
(31)	商品売り切れ(有名なパン屋が売り切れで買えず)	SL	SL	1)	主婦仲間	残念ですね。
(8)	他者会合不参加(久しぶりの集まりに参加できない人あり)	SL	SL	2)	後輩→先輩(元同僚)	残念ですね。
(44)-1	他者会合不参加(子供の病気のため、参加できず)	SL	SL	2)	友人	
(60)	歌手復帰なし(休業中の有名歌手が復帰できず)	SL	SL	2)	知人	残念ですね。
(71)-1	テレビ選手敗退解説(入賞候補の選手が転倒で、勝てず)	SL	SL	2)	アナウンサー→解説者	残念ですね。
(15)-1	応援選手敗退(応援していた選手が勝てず)	S(L)	SL	2)	友人	残念～。
(15)-2	応援選手敗退(応援していた選手が勝てず)	S(L)	SL	2)	友人	ざ～ん～ね～ん。
(1)-1	天気(天候不良のため、出店で売れず)	L	L	1)	友人	残念でしたね。
(72)	天気/花火中止(雨のため、花火大会見られず)	L	L	1)	主婦仲間	残念/でしたね。
(52)-1	旅行中止(都合が悪くなり、家族旅行行けず)	L	L	1)	友人	残念ですね!
(6)	娘の見合い不成功(娘が見合いを断る)	L	L	2)	妹→姉	残念ね。
(54)	テスト赤点	L	L	1)	母親→子	残念ね/だったね。
(59)	応援野球チーム敗退	L	L	2)	知人	残念ですね。
(26)-1	食事なし(夕食があると言わなかったため、夕食が食べられず)	L	L	1)	母親→子	残念でした。
(26)-2	食事なし(夕食があると言わなかったため、夕食が食べられず)	L	L	1)	母親→子	残念ですね。

(7)	クイズ不正解	L	L	1)	娘→父	残念でした。
(18)-2	懸賞はずれ(コンサートチケットに応募したが、当たらず)	L	L	1)	友人	残念だねー。
(64)	くじ引きはずれ(現場 引いたくじがはずれる)	L	L	1)	店員→客	残念／ですね／でした。
(27)	くじ引きはずれ(現場 引いたくじがはずれる)	L	L	1)	店員→客	残念。／残念ですー／ですねー。
(4)	研究実用化不可(研究成果を実用化できず)	S	L	1)	営業マン→教授	残念ですね。
(16)-2	商品売り切れ(狙っていた商品が売り切れで買えず)	S	L	1)	客→店員	残念?。
(23)-2	商品売り切れ(スーツケース売り切れで買えず)	S	L	1)	客→店員	残念…／だわー／ですー／ですねー
(25)	商品売り切れ(靴が売り切れで買えず)	S	L	1)	客→店員	残念…／だわー／ですー／ですねー
(2)	会合参加断り(現場の誘い、子供の塾の迎えで行けず)	S	L	1)	主婦仲間	残念ね。
(39)	旅行参加断り(現場の誘い、子供の塾で行けず)	S	L	1)	同僚	残念ですね。
(45)	会合参加断り(以前の誘い、用事で行けず)	S	L	1)	友人	残念。／残念ね。
(62)	盆踊り大会参加断り(現場の誘い、バイトで行けず)	S	L	1)	留学生→日本人	残念／だな／ですー。
(40)	行楽参加断り(現場の誘い)	S	L	1)	友人(同室者)	残念ですねー。
(41)	金を借りる依頼(金がないため、貸せず)	L	S	1)	友人	残念ですね。
(18)-1	懸賞はずれ(コンサートチケットに応募したが、当たらず)	S	S	1)	友人	残念?。(からかい)

これは、SL 共に「残念」と感じる主体であり (①誰が「残念」か)、「残念」という感情が生じた原因も SL 両者の領域にある (②「残念」の領域) という状況である。③誰の行為/状況かは、1) 会話参加者の行為/状況、2) 会話参加者以外の行為/状況、のどちらでも使用可能である。つまり、SL の行為や状況でも、第三者の行為や状況でもかまわない。前掲の(2)富士山、(4)同僚退職の例はこの型である。(2)富士山は、会話参加者である SL が富士山が見えないという状況にあるため③誰の行為/状況かは1) 会話参加者の行為/状況に、(4)同僚退職は会話参加者以外の人の行為であるため③誰の行為/状況かは2) 会話参加者以外の行為/状況に該当する。④人間関係に制限はなく、上下関係があっても、2人で「残念」という感情を共有していれば「残念ですね」は使用しやすいものと考えられる。この型の傾向としては、(2)富士山の例のように、「残念ですね」の発話時に「残念」である状況が目前で起こっている例が多いということが指摘できる。次の(6)も、2人で出かけていったお店が閉店で食べられないという時点での会話である。SL 共に「残念」と感じ、2人が閉店で食べられないという状況であるため、「残念」の原因である②「残念」の領域は SL の領域といえる。また、SL 自身が食べられないということであるため、③誰の行為/状況かは、1) 会話参加者の行為/状況、である。④人間関係も、設定状況の説明から知り合ったばかりという親密ではない関係であるが、「残念ですね」を使用している。

(6) 知り合ったばかりの人同士で、食事に行く相談。Aは地元、Bは客、男女、年齢は関係なし

A: 何にしましょうか。魚は嫌いじゃないですね。

B: ええ。

A: 近くにおいしい魚料理のお店があるんです。そこにしませんか?

B: あ、いいですね。じゃ、そこに行きましょう。

(休業中) の札を見る。

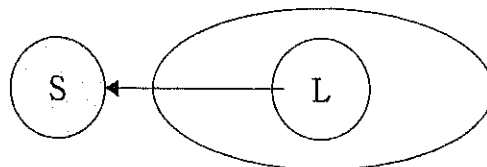
A: あれ、休みだ。 うううん。

B: ああ、残念ですね。

A: じゃあ、どこにしようかなあ。(独り言)

(例(4) 関係者)

### 6.1.2 S-Lの型



S: 「残念ですね。」の話し手

L: 聞き手

①だれが「残念」か: ○

②「残念」の領域: ○

図2: S-Lの型 (①だれが「残念」か; S - ②「残念」の領域; L)



これは、Sが「残念」と感じている主体（①誰が「残念」か）であるが、「残念」と感じる原因の②「残念」の領域は、Lである。つまり、LがSに「残念」と感じる行為を行った結果、Sが「残念」と感じるという状況である。③誰の行為／状況かは、1）会話参加者の行為／状況、のみである。つまり、「残念」の原因であるLの行為／状況のみで、第三者の場合はない。この型には、Lからの断りの例が多いといえる。<sup>(7)</sup> 次の(7)も、L(A)の飲み会に行けないという断りの情報に対し、S(B)が「残念」と感じている。Lの断りという行為によってSLが一緒に飲みに行けないため、③誰の行為／状況かは1）会話参加者の行為／状況である。④人間関係は、基本的に制限はないが、上の人に対して「ね」を使用しない傾向を示す作例者もいた。<sup>(8)</sup>

(7) 飲み会に誘われていたが、別の急用ができキャンセルすることになった友人同士

A：急な用事が入って、どうしても行かなければならないので飲み会の方には行けなくなったの。

B：あら、残念ね。 (例(45) 非関係者)

「残念ですね」が使われる会話例について、日本語の教科書を数冊見たところ、このS-Lの型の例が多く見られた。断られた場合の受け答えの用法として、また、断られた場合に会話を終了させる用法として、多く提示されているようである。

6.1.3 L-Lの型

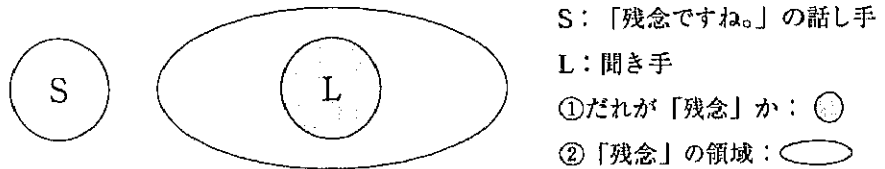


図3：L-Lの型（①だれが「残念」か；L - ②「残念」の領域；L）

これは、Lが「残念」と感じる主体であり（①誰が「残念」か）、「残念」と感じる原因もLの領域にある（②「残念」の領域）。SはLの発話を聞き、Lの状況へ同情を示して「残念ですね」と発話するという状況である。従って、前提としてLが「残念」と感じていなければ、Sは「残念ですね」を使用することができない。例にはLの発話において、Lが「残念」である気持ちを明示する言語形式が多くみられた。例えば(8)では、L(A)は「バレエ楽しみにしてたのに」と明言しており、これを聞いたS(B)は、バレエが見にいけないL(A)に対して同情を示して「残念ですね」と発話している。③誰の行為／状況かは1）会話参加者の行為／状況のみで、第三者の行為／状況について話しているというものはない。

(8) 日本語研究室で。男性教授と女性助手<sup>(9)</sup>

A：来週の月曜日、バレエを見に行こうと思っていたのに、急な出張が入っちゃったのよー。

B：あらー。もうチケット買っちゃったんですか。

A：そうなの。それは誰かにあげればいいんだけど、バレエ楽しみにしてたのに。

B：それは残念ですねー。 (例(88) 関係者)

④人間関係に関しては制限が生じ、(8)では使われているが、下から上に対しては「残念ですね」という言語形式そのものを選択せず、他の言語形式の方が適当であると考えられる例も見られた。例えばLの試験不合格に対し、(9)のようにSが教師であるなら「残念ですね/残念でしたね」と言いやすいが、(10)のように同じ受験生では嫌みと解釈されうる。なお、(10)は、「4. 2 分析対象データ」における「①自然さ判断と修正」において、この状況で「残念」は使用しない例として分析対象外とした例である。

(9) A = 学生 B = 教授 Aは大学院の試験の結果をBに報告している

A：先日受けた大学院の試験なんですけど、だめでした。

B：そうですか…。残念でしたね。

A：ええ。先生にせっかく推薦状を書いていただいたんですけど…。

B：また、がんばってください

A：はい、がんばります。 (例(57) 関係者)

(10) 高校生A君と高校生B君の場合。(関東版)

A：やあ、今、合格発表みてきたけどさあ、

B：それで、どうだったア

A：(チキショー) 駄目だったよ

B1：そっかアー、じゃ、次ぎの試験、マジがんばねえとヤバエなアー

B2：そりゃ、残念だったね。 (例(60) 関係者)<sup>(10)</sup>

また、個人差があるものの、Lの状況が深刻な場合は「残念」は使わない傾向が強くなる。発話者自身が言いにくいと感じたり、聞き手の方も失礼であると感じたりするからであるものと考えられる。

以上、3つの型(SL-SL、S-L、L-L)とその使用制限についてまとめると、以下のようになる。①誰が「残念」か、②「残念」の領域という2つの分析項目から3つの型が抽出され、この3つの型と、③誰の行為/状況か、④人間関係との関係から、③誰の行為/状況か、④人

間関係、「ね」の使用に使用制限がみられたといえる。

① 誰が「残念」か - ②「残念」の領域	③誰の行為/状況か	④人間関係
SL-SL	1) 会話参加者の行為/状況 2) 会話参加者以外の行為/状況	・基本的に制限なし
S-L	1) 会話参加者の行為/状況	・基本的に制限なし ・下から上の人に対する「ね」の使用に個人差あり
L-L	1) 会話参加者の行為/状況	・Lが「残念」と感じている言語形式が多く見られる ・深刻な場合は「残念」が言いにくい ・下から上の人に対しては「残念」を使用しない傾向もある

次に、この3つの型とその使用制限の分析をふまえ、何に対して「あいづち+a」の「残念ですね」が使用できるのかという意味の使用制限の分析について述べる。

## 6.2 発話の立場と対象

3つの型 (SL-SL、S-L、L-L) では、①誰が「残念」かに該当する人物と「残念ですね」の発話者が、同一の場合と異なる場合があった。つまり、「あいづち+a」として発話される「残念ですね」は、「残念」と感じている人が自分の感情表出として発話する場合と、相手の状況に感情移入し、同情を示して発話する場合の2つに分けられるといえる。3つの型のうち、SL-SLとS-Lの型の場合は、前者の自分の感情として、L-Lの型の場合は後者の相手への同情として発話するものであった。

例えば、SL-SLの(2)見たかった富士山の例や(6)レストランの閉店の例は、富士山が見られない、食事するつもりだった店で食べられないということに対し、SL共に「残念」と感じ、「残念ですね」と自らの感情を表出している。同様に、S-Lの(7)の飲み会の断りの例は、断られて一緒に飲みに行けないSが、自らの「残念」な感情を述べている。

一方、L-Lの(3)旅行中止、(5)おみあい、(8)バレエ、(9)試験不合格の例の場合は、Lが楽しみにしていた旅行に行けない、期待していたおみあいがうまくいかなかった、楽しみにしていたバレエを見に行けない、試験に合格できなかった結果として、L自身が「残念」と感じている。そして、このLの状況を聞いたSが、Lへの同情を示して「残念ですね」と発話しているものである。つまり、Sは、「残念」と感じているLへ感情移入し、同情を示して「残念

ですね」と発話したものと見える。

2つの「残念ですね」の発話の立場の違いをまとめると、以下のようになる。

3つの型	発話の立場
SL-SL	自分の感情表出
S-L	自分の感情表出
L-L	相手への同情

学習者の「残念ですね」に対し、相手が違和感を覚えてしまうような会話は、このL-Lの型に多くみられる。学習者は、相手がある好ましくない状況にあると判断し、相手に対する同情の気持ちを表すために「残念ですね」と発話しているものと考えられる。(1)のかぜの例も、学習者は、L-Lの型として、教師がかぜをひいたという好ましくない状況にあることに対し、同情を示したものと考えられる。

相手が好ましくない状況にあり、相手に対する同情の気持ちがある場合 (L-Lの型)、英語では “That's too bad” “It's a pity” “I'm sorry to hear that~” といった表現で、相手への同情の気持ちを表現することができるものと考えられる。しかし、日本語では、「6.1.3 L-Lの型」で述べたように、Lが残念と感じていなければ、Sは「あいづち+a」の「残念ですね」を使うことができない。そこで、まず、好ましくない状況の中でも、何に対して「残念」と感じるのかという「残念」の対象の分析が必要であるといえる。また、その「残念」の対象の分析と、3つの型との関係を見ることによって、L-Lの型だけでなく、3つの型それぞれにおいて、どのような「残念」の対象に対して、「あいづち+a」の「残念ですね」が使用できるのかについて分析する。

これまでに提示した例を3つの型に分けてみると以下のようなようになる。

- SL-SL : (2) 見たかったのに、富士山が見られない  
(4) 同僚の田中さんが退職  
(6) 食事したかったのに、レストランが閉店で食べられなかった
- S-L : (7) 一緒に飲むはずだったのに、断られて飲み会に一緒に行けない
- L-L : (3) 旅行を楽しみにしていたのに、地震で旅行に行けなかった  
(5) 期待していたのに、お見合いがうまくいかなかった  
(8) 楽しみにしていたのに、バレエを見に行けない  
(9) 合格できるようがんばったのに、試験に合格できなかった

どの例の状況も、SやLにとって「残念」と感じる好ましくない状況であるが、その好ましく

ない「残念」と感じる状況は、なんらかの行為が絡んでいるものと絡んでいないものに分けられる。具体的にみると、まず、(4)同僚退職の例以外は、楽しみにしていたり、期待していたことができない／できなかったという、ある「行為の不実現」の結果引き起こされた好ましくない状況である。しかし、(4)は、SLの「行為の不実現」の結果引き起こされた好ましくない状況とは考えられない。同僚の退職という、好ましくない状況にABはあるが、その好ましくない状況とは、「行為の不実現」の結果引き起こされた好ましくない状況ではなく、かつ、第三者の退職であるためSLの行為は絡んでいない。このように、SLが好ましくない状況にあるものの、SLの行為の絡んでいない状況には、これから何かを失ったり、すでに失ってしまった状況であるという傾向がある。次の(11)も、「行為の不実現」とは考えにくい、行為の絡んでいない「何かを失う／失った状況」の例である。(11)は、SLが同僚の転職について話しているSL-SLの型で、2) 会話参加者以外の行為／状況、に該当する例である。

(11) 二人の関係は、会社の同僚。今度転職になる他の同僚について話している。

A：Cさん、また転職になるそうだよ。

B：そうなんですか？ せっかくここの仕事にも慣れてきたのにね。

A：残念ですね。

(例(110) 関係者)

また、複文の例であったため、今回は分析対象としなかったが、(12)のように、第三者の死について話している例もある。これもX先生を失ったという状況についてSLが話しており、SLの楽しみにしていたり期待していたりした「行為の不実現」の結果引き起こされた好ましくない状況とは考えられない。

(12) ち：X先生とは、直接関係はないが、同じ分野の研究者

と：X先生なくなったそうですね。

ち：ええ、まだまだ活躍されるものと思っていたのに、残念ですね。

(例(9) 関係者)

以上述べたように、第三者の退職、転職、死亡は、好ましくない状況ではあるが、楽しみにしていたり期待していた「行為の不実現」の結果引き起こされたものではない。SLがこの退職、転職、死亡となった第三者と親しい人間関係であったり、SLにとって深刻な状況であれば、まず状況の詳しい説明を求め、「残念ですね」とは発話しない可能性が高くなる。しかし、そのような人間関係や深刻な状況でなければ、「何かを失う／失った状況」において「残念ですね」という発話が許容されるものと考えられる。

このように、ある「行為の不実現」とは考えられず、「何かを失う／失った状況」といえる

例には、第三者の退職、転勤、死亡に対して「残念ですね」を使用している会話例が多く見られた。今回の資料をみる限り、SL-SLの型の2) 会話参加者以外の行為/状況という条件において、「何かを失う/失った状況」に対して「残念ですね」が使用されていた。3つの型との関係でまとめると、以下のようにまとめられる。

3つの型	「残念」の対象
SL-SL	・行為の不実現 ・何かを失う/失った状況
S-L	・行為の不実現
L-L	・行為の不実現

収集データには様々な「残念ですね」の例があったが、用法の分析を通して「残念ですね」の使用できる状況の3つの型が抽出され、その型との関係から、「残念」と感じる好ましくない状況の中でも、「行為の不実現」と「何かを失う/失った状況」に対して「あいづち+a」の「残念ですね」が使用できるということがわかったといえる。つまり、SL-SLの型の場合は、「行為の不実現」と「何かを失う/失った状況」の両方に対して「残念ですね」が使用できるが、S-L、L-Lの型の場合は、「行為の不実現」に対してのみ「残念ですね」が使用できるといえる。冒頭(1)のかぜの例は、かぜをひいているという教師(L)の状況が学生(S)から見て、いわゆる好ましくない状況にあたるが、かぜをひいている状況は、教師(L)の楽しみにしていた、あるいは、期待していた「行為の不実現」の結果として引き起こされた好ましくない状況ではなく、Lが「残念」と感じるような状況ではない。したがって、SはLの状況に対して同情していても、「残念ですね」を使用すると、相手が違和感を覚えてしまうような結果となってしまふ。ただし、かぜをひいたために楽しみにしていた旅行に行けなかったというように、Lの行為が絡んでいるのであれば「残念ですね」の使用は許容されるものと考えられる。

なお、「残念ですね」が発話できる対象は、単に、「行為の不実現」と「何かを失う/失った状況」の二項対立に分類できると主張するものではない。辞書的な「残念」の意味ではなく、3つの型との関係で「あいづち+a」の「残念ですね」が使用される対象を具体的にみた結果、「行為の不実現」と「何かを失う/失った状況」という2つの対象が抽出され、かつ、「何かを失う/失った状況」に関しては、SL-SLの型においてのみ使用できるということが明らかになったということである。今回の用法と意味の二方向からの分析により、聞き手の「あいづち+a」としての「残念ですね」の使用制限が明らかとなったといえ、会話への積極的な参加の方法の1つとして、指導につなげられるものと考えられる。

## 7. まとめ

今回、会話に積極的に参加するための方法の1つとして、聞き手の「あいづち+*a*」としての「残念ですね」を例に取り、接触場面における使用制限について、用法と意味の二方向からの分析を行った。用法の分析については、①誰が「残念」か、②「残念」の領域、③誰の行為/状況か、④人間関係という4つの項目による分析を通して、①誰が「残念」か、②「残念」の領域の組み合わせから、SL-SL、S-L、L-Lという3つの型が抽出された。さらに、この3つの型と③誰の行為/状況か、④人間関係の関係から、③誰の行為/状況か、④人間関係、「ね」の使用という3つの使用制限があることが明らかになった。

次に、この3つの型をもとに、意味の分析を行った結果、SL-SL、S-Lの場合は自分の感情表出として、L-Lの場合は相手への同情として「残念ですね」を使用するという、発話の立場の違いが明らかになった。さらに、このような立場から何に対して「残念ですね」を発話するのかについて、データ的话题を通して傾向をみたところ、「行為の不実現」と「何かを失う/失った状況」の2つが「あいづち+*a*」の「残念ですね」の発話対象として抽出された。さらに、「行為の不実現」は3つの型全てにおいて「残念ですね」が使用できるが、行為の絡んでいない「何かを失う/失った状況」に対してはSL-SLの型においてのみ使用できるということがわかった。以上をまとめると以下ようになる。

3つの型	発話の立場	「残念」の対象
SL-SL	自分の感情表出	・行為の不実現 ・何かを失う/失った状況
S-L	自分の感情表出	・行為の不実現
L-L	相手への同情	・行為の不実現

## 8. 今後の課題

今後の課題としては、以下のものがあげられる。まず、今回分析対象としなかった問題として、文体やテンスの違いによる使用制限の違いの分析があげられる。さらに、データには「残念ですね」の前に「そうですか」「それは」といった表現がよく使用され、これらの有無によって自然か不自然かの判断に影響がみられた。よって、この「残念ですね」の前の「そうですか」「それは」といった表現の有無による違いについても検討したい。

一方、指導という観点からは、複文の中で用いられる「残念ですね」の分析の可能性があげられる。収集データには、複文により状況を言語化した例が多くみられた。複文によって状況を言語化することにより、何に対し、どういった立場で「残念ですね」と発話しているのかを明確に述べていた。複文によって「残念」と感じる状況を明確に述べることで、会話指導に生

かせるかどうか検討したい。

最後に、今後の特に重要な課題として、「あいづち+ a」も含めた、会話への積極的な参加を示すことのできる方法の種類や働きについての考察が指摘できる。

#### 注

- (1) この例は学生の発話を会話終了後に書き取ったもので、「4. 分析データ」で述べている収集データではない。
- (2) 実際にドラマや映画のシナリオにもあたってはみたものの、使用制限の分析のためのある程度まとまった数の用例の収集が困難であった。データ収集の際にも、「残念ですね」はあまり使用しないというコメントがみられた。このことから、日本人同士の会話ではあまり「残念ですね」は使用しないということがうかがわれる。
- (3) ①自然さ判断と修正の結果、会話の状況設定と「残念」の形式の両方が自然と判断された例のみが分析対象となった。この結果、非常に許容度の高い会話例を分析対象としたといえる。
- (4) データ数には入れてあるものの、からかって「残念ですね」と発話する例、くじ引きではずれを引いた客に対し店員が「残念ですね」と発話する例、テレビの解説でレポーターなどが「残念ですね」と発話する例は、実質、分析対象としていない。まず、からかいの例については、一般的な枠からはずれているからこそからかいとなるからである。例えば、表2(41)はからかいの例であり、「6. 1 3つの型と使用制限」で述べる3つの型(SL-SL、S-L、L-L)からはずれたL-Sの型であるため、からかいとして解釈できる。次に、くじ引きとレポーターの例については、非常に定型化した例であること、また、からかいの例も含め、3つとも非常に限られた状況における会話で、学習者が使用する可能性が低いものと考えられるからである。
- (5) 今回、日本語教育の関係者と非関係者の違いについては取り上げなかったが、両者の違いとして以下のような傾向がみられた。まず、関係者の場合、大学院不合格、旅行中止、出かけていった店の閉店、誘いに対する断りなど、会話の設定状況が似通っていた。これに対し、非関係者の場合は、設定状況や「残念」の形式が多様であった。しかし、好ましくない状況全般において「残念ですね」の使用を試みたのか、①自然さ判断と修正において、会話の状況設定自体が不自然であるとして分析対象外となる例も多かった。その中でも、特に、話し手に落ち度があり、謝罪すべき状況においても「残念ですね」を使用する例が多かった。
- (6) ①誰が「残念」か、②「残念」の領域という2つの項目から抽出されたSとLの組み合わせの型は、論理的には、SL-SL、S-L、L-Lの3つの他に、L-S、S-Sもありうる。しかし、L-Sの場合、Sが原因でLが「残念」と感じているのにもかかわらず、原因であるSがLに対し「残念」と発話するということになる。Sは「残念」と言うよりも、謝罪した方が



いい状況である。次の例は、①自然さ判断と修正において、この状況で「残念」は使用しない例として分析対象外とした例である。クリーニング屋は謝罪した方が自然と考えられる。

クリーニング屋へハーフコートをシーズンオフなので出し、引き取りに行った時。

(ハーフコートは1シーズン目)

コートの前立てにほつほつのしみが無数に、しかも全面に出ているのを見つける。

客：このポツポツのしみはなんですか？ クリーニングへ出す時には、何もついでいなかったんですよ。

店：それは接着芯だと思うんですよ。液と反応して外にでちゃうんだよね。

そういうのが多くてこちらとしても困ってるんだ。

客：なんとかならないんですか。これまで1シーズンしか着てないし。これじゃ、もう着られないし。

店：残念ですね。こちらとしても…。

客：そうですか…。

(例(24) 非関係者)

もう1つのS-Sの場合は、Sの原因でS自身が「残念」と感じているという状況である。「あいづち+a」の「残念ですね」として、相手に向かって「残念ですね」と発話するものではないため、分析対象とはしなかった。ただし、「4. 2 分析対象データ」の①自然さ判断と修正、②形式分類の結果、自然さや形式に関しては問題とならなかった例は、「6. 分析結果」の表1、2にデータとしてあげられている。

- (7) Sの気持ちとして「残念ですね」と発話しているのかどうかは、最終的には発話者でなければわからない。Sの気持ちとして、独り言で「残念」と発話しているのか、Lの気持ちを押し量って「残念ですね」と発話しているのかは、実は明確には言いきれないところがある。
- (8) 作例者の中には、上の人に対して「残念ですね」と発話するのは失礼であると感じ、「残念…」といったひとりごととして発話することを選ぶ傾向もみられた。
- (9) 会話の状況説明にAは「男性教授」とあるが、会話の文末形式から「女性教授」ではないかと思われる。
- (10) 会話の状況説明に「(関東版)」とあるのは、この作例者が同じ状況において「関西版」と「関東版」の会話を作成したためである。また、Bの発話に「B1」「B2」となっているのは、作例者の説明がなかったのではっきりとはしないが、連続する発話ではないものと考えられる。

## 参考文献

Goodwin, Charles and Marjorie Goodwin. (1992) Assessments and the construction of con-

- text. *Rethinking context*, ed. by Alessandro Duranti and Charles Goodwin: 147-189, Cambridge: Cambridge University Press.
- Jorden, Eleanor with Mari Noda. (1987) *Japanese: The spoken language*. New Haven and London: Yale University Press.
- 伊豆原英子 (2001) 「「ね」と「よ」再再考」『愛知学院大学教養部紀要』49-1: 35-49
- 伊藤博子 (1993) 「談話の指導-バックチャンネルからの展開-」『日本語学』12-9: 78-91
- 大場美和子 (2002) 「初級文法で磨く会話のテクニック 「そうですか」のコミュニケーション」『月刊日本語』10月号: 78-81 アルク
- 大場美和子 中井陽子 土井真美 (2002) 「会話への積極的参加を示す評価表現的発話-「残念ですね」を例に-」『日本語教育方法研究会』9-1: 26-27
- 杉戸清樹 (1987) 「発話の受け継ぎ」国立国語研究所『国立国語研究所報告92 談話行動の諸相-座談資料の分析』: 68-106 三省堂
- 日本語国語大辞典第二版編集委員会 小学館国語辞典編集部 編集 (2000-2002) 『日本国語大辞典 第二版』小学館
- 蓮沼昭子 (1988) 「続・日本語ワンポイントレッスン」『月刊言語』17-6: 94-95
- 堀江・インカピロム・ブリヤー (1995) 「日本語とタイ語の比較に見る「もったいない」「惜しい」「残念だ」の意味・用法」阪田雪子先生古希記念論文集刊行委員会『阪田雪子先生古希記念論文集 日本語と日本語教育』三省堂: 205-229
- 堀口純子 (1987) 「コミュニケーションにおける聞き手の言語行動」『日本語教育』64: 13-26

#### 参考資料

- 田中よね 牧野昭子 重川明美 御子神慶子 古賀千世子 石井千尋『みんなの日本語』スリーエーネットワーク
- 筑波ランゲージグループ『Situational Functional Japanese』凡人社